



2022年8月27日

ロータリーの危機管理 メディア対応

「GOLDEN 30 Minutes!!」



一般社団法人 国際ロータリー日本青少年交換多地区合同機構

近藤 眞道

D2660 青少年奉仕統括委員会
アドバイザー

(RIJYEM アドバイザー)

2005年5月 R I 青少年交換委員会委員7名が

「ロータリー青少年交換事業で、
危機が発生した時のマスコミ対応はどうするか？」

のトレーニングの為にエヴァンストンRI本部に呼ばれました。

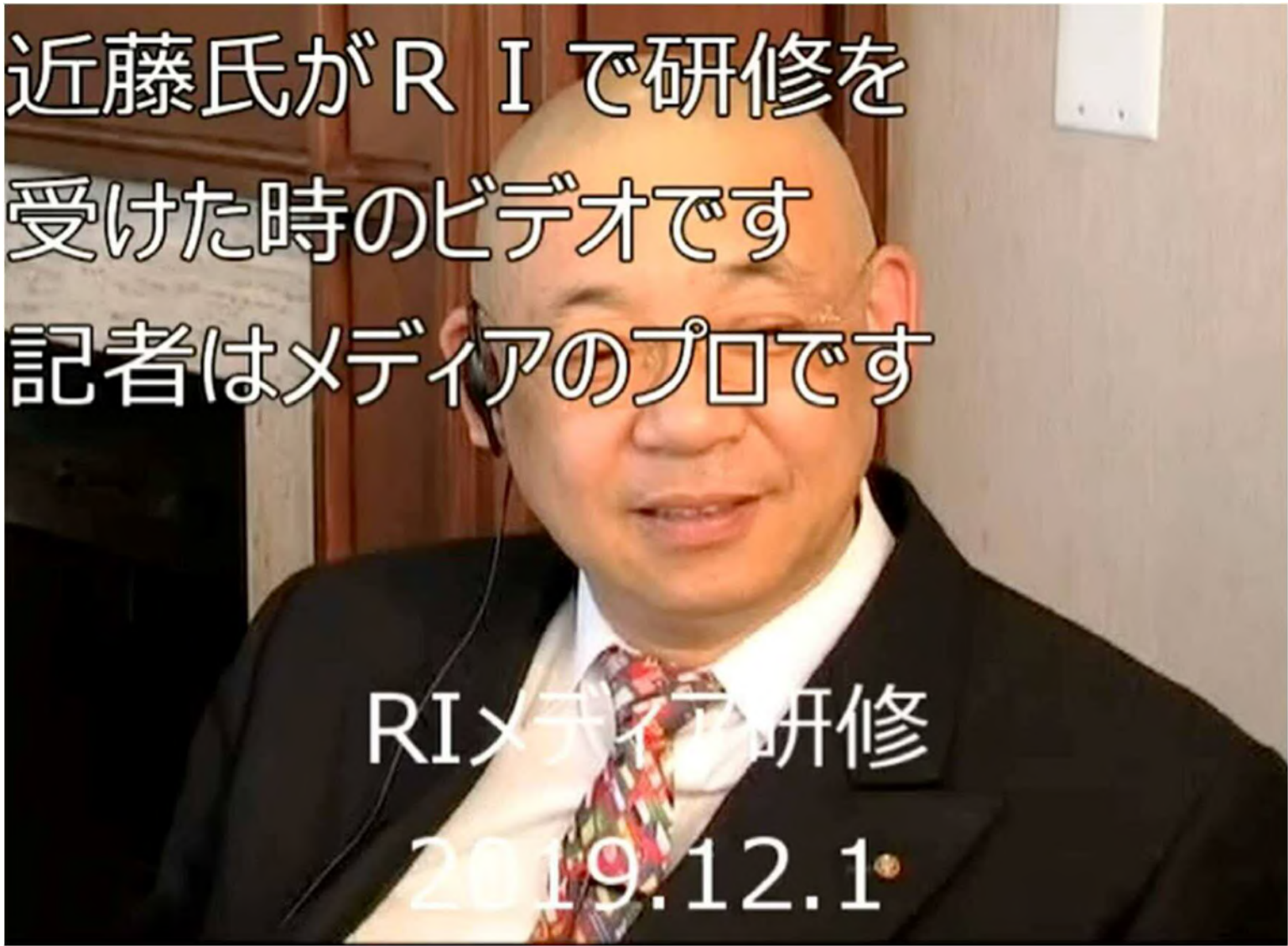
トレーニングの内容

1. 青少年交換プログラムで起こった架空の事故・事件に対して、マスコミが取材に来た。
2. マスコミのレポーター・記者が、担当ロータリアンに当該事件・事故に関して質問をする。
3. 担当ロータリアンは記者の質問に答える。
4. その一部始終をビデオで録画、撮影終了後ロータリアンの答弁内容を精査しチェックする。

* 出題者、及びトレーナーはCNNの現役のレポーター・記者

私の場合の取材対象となった「事故」

“青少年交換で日本に長期交換生として
アメリカからやってきた青少年が
ロータリアンの運転する車で事故にあって死亡した“

A middle-aged man with a shaved head, wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a colorful patterned tie. He is wearing a headset microphone and appears to be speaking. The background is a plain wall with a light switch.

近藤氏がR Iで研修を
受けた時のビデオです
記者はメディアのプロです

RIメディア研修
2019.12.1

録画が終わってからのトレーナーの 私に対するコメント

1. なぜ、交通事故とは関係のない日本社会における女性の地位に関する質問をしたか？
2. それらにたいしての私の種々答弁に対してのコメント。
3. 女性の地位に関しての「理想的な答弁」のありかた。

事件・事故発生時の基本的対応

事件・事故発生後 速やかに公式見解をロータリーとしてだす。

【見解の内容】

1. 「事件が発生したことはロータリーとして認識しています。
詳細については、後刻判明した段階で 公式に発表します。」

注意事項

- * 事実認識はしている事のみを述べ、当該事件・事故に対して推測や希望的観測などは一切述べない。もちろん謝罪などもする必要がない。

2. 発生事案に関する発表は

「危機管理委員会 広報担当」のみがおこなう。

広報以外のロータリアンは一切個人的発言はしない。

3. 最高責任者（クラブにあってはクラブ会長、
地区にあってはガバナー）は一切発言はしない。
事案が決着した時のみ 公式発言をする。

そして もっとも重要な事！

「Golden 30 Minutes!」

事件発生後30分がカギ！

それが、後刻のあらぬうわさ・誤解を防ぎロータリーを護る。

